


先行審査プラントの記載との比較表 (V-1-10-6 設工認に係る設計の実績, 工事及び検査の計画 (放射性廃棄物の廃棄施設))


玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p>設工認に必要な設計の要求事項を, V-1-10-1 「設計及び工事に係る品質マネジメントシステムに関する説明書」 (以下「V-1-10-1」という。)の「3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化」に示す事項とした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現上の差異 ・図書名称等の差異 (図書名称及び読み込み表現の差異については, 本事項に代表して記載し, 以下備考欄の記載を省略する。)
		<p>工認プロジェクト (原子炉設備チーム) は, V-1-10-1 の「3.3.2 各条文の対応に必要な適合性確認対象設備の選定」に基づき, 設置許可基準規則, 安全審査指針, 技術基準規則, 旧技術基準規則及び設置変更許可申請書をインプットとして, 設計基準対象施設と重大事故等対処設備に係る機能ごとに「放射性廃棄物の廃棄施設」を抽出するとともに, それらのうち号機間で共用する設備を明確にし, 工認プロジェクト (品質保証チーム) は, その抽出した結果をアウトプットとして様式-2 に整理した。</p> <p>工認プロジェクト品質保証チーム管理者は, 工認プロジェクト (品質保証チーム) が取りまとめた様式-2について, V-1-10-1 の「3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化」で明記している設計に必要な要求事項が適切か, またこの要求事項に対して必要な機器等が抜けなく抽出されているかの観点でレビューし, 承認した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織に係る体制の差異 (組織に係る体制の差異については, 本事項に代表して記載し, 以下備考欄の記載を省略する。) ・設備構成の差異 (柏崎刈羽は号機間共用する設備を様式-2 で整理している。) ・差異なし
		<p>工認プロジェクト (原子炉設備チーム) は, V-1-10-1 の「3.3.3(1) 基本設計方針の作成 (設計 1)」に基づき, 技術基準規則をインプットとして, 技術基準規則の各条文と各施設における適用要否の考え方及び技術基準規則の条文単位での適用を明確にし, 工認プロジェクト (品質保証チーム) は, その明確にした結果をアウトプットとして様式-3 に取りまとめた。</p> <p>工認プロジェクト (品質保証チーム) は, 様式-3 をインプットとして, 条文と施設の関係を一覧に整理し, アウトプ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現上の差異 ・差異なし

青字 : 柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
 : 前回提出時からの変更箇所

玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p>ットとして様式-4に取りまとめた。</p> <p><u>工認プロジェクト(原子炉設備チーム)</u>は、実用炉規則別表第二、技術基準規則、様式-2及び様式-4をインプットとして、抽出した機器に適用される技術基準規則の条項号及び条項号ごとに詳細な検討が必要となる項目を整理し、<u>工認プロジェクト(品質保証チーム)</u>は、抽出した機器を実用炉規則別表第二の施設区分ごとに並び替えるとともに、<u>その整理した結果</u>をアウトプットとして<u>様式-5-1</u>に取りまとめた。</p> <p><u>工認プロジェクト(原子炉設備チーム)</u>は、設置許可基準規則、技術基準規則及び設置変更許可申請書をインプットとして、V-1-10-1の「3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化」で明記した要求事項を満たすために必要な基本設計方針を策定し、<u>工認プロジェクト(品質保証チーム)</u>は、<u>その策定した結果</u>をアウトプットとして、各条文の設計の考え方を様式-6に、要求事項との対比を明示した基本設計方針を様式-7に取りまとめた。</p> <p><u>工認プロジェクト(原子炉設備チーム)</u>は、基本設計方針をインプットとして、既工認や他プラントの状況を参考にして、各機器の耐震重要度分類、機器クラス、兼用する際の登録の考え方及び適合性確認対象設備に必要な<u>設</u>工認書類との関連を<u>明確にし</u>、<u>工認プロジェクト(品質保証チーム)</u>は、<u>その明確にした結果</u>をアウトプットとして<u>様式-5-2</u>に取りまとめた。</p> <p><u>工認プロジェクト品質保証チーム管理者</u>は、<u>工認プロジェクト(品質保証チーム)</u>が取りまとめた、様式-3、様式-4、<u>様式-5-1</u>、<u>様式-5-2</u>、様式-6及び様式-7について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現上の差異 ・資料構成の差異（柏崎刈羽は、様式-5を様式-5-1、様式-5-2として作成している。） ・表現上の差異 ・インプットの差異 ・核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律等の一部改正に伴う、使用する用語の差異（以下「新検査制度移行に伴う表現の差異」という。） ・表現上の差異 ・資料構成の差異（柏崎刈羽は、様式-5を様式-5-1、様式-5-2として作成している。） ・資料構成の差異（柏崎刈羽は、様式-5を様式-5-1、様式-5-2として作成して

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
 ：前回提出時からの変更箇所

玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p>て、V-1-10-1 の「3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化」で明記している設計に必要な要求事項に対して、設計方針が抜けなく設定されているかの観点でレビューし、承認した。</p>	<p>いる。)</p>
		<p><u>工認プロジェクト (原子炉設備チーム)</u> は、様式-2 で抽出した機器に対し、詳細な検討が必要となる設計の要求事項を明記している <u>様式-5-1, 様式-5-2</u> 及び基本設計方針をインプットとして、該当する条文の基本設計方針に対する適合性を確保するための詳細設計を実施し、<u>工認プロジェクト (品質保証チーム)</u> は、その <u>詳細設計の結果</u> をアウトプットとして様式-8 の「工認設計結果 (要目表/設計方針)」欄に取りまとめた。</p> <p><u>工認プロジェクト品質保証チーム管理者</u> は、「運用要求」に分類した基本設計方針を取りまとめ、<u>保安管理グループマネージャ</u> に必要な検討を依頼した。</p> <p><u>工認プロジェクト品質保証チーム管理者</u> は、<u>工認プロジェクト (品質保証チーム) が取りまとめた</u> 様式-8 の「工認設計結果 (要目表/設計方針)」欄について、<u>V-1-10-1 の「3.3.3(1) 基本設計方針の作成 (設計 1)」</u> で明記している <u>施設</u> ごとの基本設計方針に対する必要な設計が行われているか、詳細な検討が必要な事項について設計が行われているかの <u>二つの観点でレビューし、承認した。</u></p> <p>基本設計方針の設計要求事項ごとの詳細設計の実績を、その実績のレビュー、設計の体制及び外部との情報伝達に関する実施状況を含めて、以下の「1.」以降に示す。(【 】は、<u>設工認書類</u>との関連)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料構成の差異 (柏崎刈羽は、様式-5 を様式-5-1, 様式-5-2 として作成している。) ・表現上の差異 ・差異なし ・資料構成の差異 (柏崎刈羽は、様式-8 の横軸を V-1-10-1 の「3.3.3(1) 基本設計方針の作成 (設計 1)」で作成した施設ごとの基本設計方針としている。) ・表現上の差異 (設計 2 をレビュー・承認していることを明確に記載した。) ・新検査制度移行に伴う表現の差異
		<p>1. 共通的に適用される設計</p> <p>共通的に適用される設計項目に対する設計を、以下に示すとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術基準規則第 4 条 (設計基準対象施設の地盤) の適合に 	<ul style="list-style-type: none"> ・差異なし ・差異なし


青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
：前回提出時からの変更箇所

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。


玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p>必要な設計を V-1-10-4 「設工認に係る設計の実績, 工事及び検査の計画 原子炉冷却系統施設」 (以下「V-1-10-4」という。) の「2. 設計基準対象施設及び重大事故等対処施設の地盤の設計」で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術基準規則第 5 条 (地震による損傷の防止) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「4. 地震による損傷防止に関する設計」で実施した。 ・技術基準規則第 6 条 (津波による損傷の防止) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「5. 津波による損傷防止設計」で実施した。 ・技術基準規則第 7 条 (外部からの衝撃による損傷の防止) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「6. 自然現象等への配慮に関する設計」で実施した。 ・技術基準規則第 9 条 (発電用原子炉施設への人の不法な侵入等の防止) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「8. 不法な侵入等の防止設計」で実施した。 ・技術基準規則第 11 条 (火災による損傷の防止) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「9. 火災による損傷の防止」で実施した。 ・技術基準規則第 12 条 (発電用原子炉施設内における溢水等による損傷の防止) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「10. 溢水による損傷防止設計」で実施した。 ・技術基準規則第 13 条 (安全避難通路等) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「13. 安全避難通路等に係る設計」及び「14. 非常用照明に係る設計」で実施した。 	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は, 「放射性廃棄物の廃棄施設」として新たに設計を行っていないため, 各機器について固有に設計すべき対象条文を本項目にて記載する。)</p> <p>・表現上の差異</p> <p>・差異なし</p> <p>・差異なし</p> <p>・表現上の差異</p> <p>・差異なし</p> <p>・差異なし</p>

青字 : 柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
 : 前回提出時からの変更箇所


玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p>・技術基準規則第 14 条 (安全設備) の適合に必要な設計を V-1-10-4 の「11. 健全性に係る設計」で実施した。</p>	<p>・差異なし</p> <p>・設備構成の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」として技術基準規則第 15 条に対する適合性確認対象設備を有していない。)</p>
		<p><u>2. 放射性廃棄物の廃棄施設の設計</u> <u>工認プロジェクト (原子炉設備チーム) は、様式-2 及び基本設計方針をインプットとして、「1. 共通的に適用される設計」を除き「放射性廃棄物の廃棄施設」に必要な設計の要求事項に変更がないこと、また、「1. 共通的に適用される設計」を除き「放射性廃棄物の廃棄施設」として基本設計方針を受けて新たに設計が必要な項目がないことを確認し、その結果をアウトプットとして設備仕様に取りまとめた。</u></p> <p><u>設備技術グループマネージャは、工認プロジェクト (原子炉設備チーム) が取りまとめた設計資料をレビューし、承認した。</u></p>	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」として新たに設計を行っていない。)</p>
		<p><u>【要目表】</u></p>	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」として新たに設計を行っていない。)</p>
		<p><u>3. 放射性廃棄物の廃棄施設の兼用に関する設計</u> <u>3.1 設備に係る設計のためのシステムの明確化及び兼用する機能の確認</u> <u>工認プロジェクト (原子炉設備チーム及び津波・溢水チーム) は、放射性廃棄物の廃棄施設の設備の設計にあたって、「3.1.1 システム構成の明確化」及び「3.1.2 兼用する機能の確認」により施設・設備区分を整理し、兼用する機能を確認したうえで、放射性廃棄物の廃棄施設の設備設計を「3.2 機能を兼用する機器を含む設備に係る設計」で実施した。</u></p>	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。)</p>
		<p><u>3.1.1 システム構成の明確化</u> <u>設備技術グループマネージャは、設工認に必要な設計を行</u></p>	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
：前回提出時からの変更箇所

玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p><u>うための仕様書を作成し、V-1-10-1の「3.6 設工認における調達管理の方法」に基づく調達管理を実施した。</u></p>	<p>が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）</p>
		<p><u>工認プロジェクト（原子炉設備チーム）は、設備技術グループマネージャが行った調達の中で供給者に対し、機能を兼用する機器を含む設備のうち、調達にて設計が必要な機器の仕様等に関する設計の実施を要求した。</u></p>	<p>・設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）</p>
		<p><u>工認プロジェクト（原子炉設備チーム）又は供給者は、V-1-10-1の「第5図 主要な設備の設計」の「系統構成の明確化」に従い、様式-2、設置変更許可申請書及び基本設計方針をインプットとして、放射性廃棄物の廃棄施設で設計を行う設備について、系統構成をそれぞれ明確にし、その結果をアウトプットとして設備ごとに必要な機能単位の系統図に取りまとめた。</u></p>	<p>・設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）</p>
		<p><u>供給者は、工認プロジェクト（原子炉設備チーム）により基本設計方針を満たす設計となっていることの確認を受け、アウトプットとして業務報告書を作成し、当社に提出した。</u></p>	<p>・設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）</p>
		<p><u>設備技術グループマネージャは、工認プロジェクト（原子炉設備チーム）の確認を受けて供給者が提出した業務報告書を承認した。</u></p>	<p>・設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）</p>
		<p>3.1.2 兼用する機能の確認 <u>工認プロジェクト（原子炉設備チーム）は、V-1-10-1の「第5図 主要な設備の設計」の「兼用する機能の確認」に従い、様式-5-2をインプットとして、放射性廃棄物の廃棄施設が主登録となる機器について兼用する施設・設備区分を確認したうえで、様式-2及び様式-5-1をインプットとして関連する技術基準規則の条文及び兼用する機能を確認し、その結果をアウトプットとして機器ごとに必要な設定根拠の「(概要)」部分に取りまとめた。</u></p>	<p>・設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）</p>
		<p><u>設備技術グループマネージャは、工認プロジェクト（原子炉設備チーム）が取りまとめた設計資料をレビューし、承認した。</u></p>	<p>・設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）</p>
		<p>【設備別記載事項の設定根拠に関する説明書】</p>	<p>・設計の差異（柏崎刈羽は、</p>


青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
：前回提出時からの変更箇所

玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
			「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。
		<p><u>3.2 機能を兼用する機器を含む設備に係る設計</u> <u>工認プロジェクト（原子炉設備チーム及び津波・溢水チーム）は、複数の機能を兼用する機器を含む以下の設備について、「3.2.1 兼用を含む放射性廃棄物の廃棄施設の機器の仕様等に関する設計」及び「3.2.2 各機器固有の設計」に示すとおり設計を実施した。</u></p> <p><u>①廃棄物処理設備</u> <u>・主排気筒</u></p> <p><u>②放射性廃棄物処理施設に関わる堰</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）
		<p><u>3.2.1 兼用を含む放射性廃棄物の廃棄施設の機器の仕様等に関する設計</u> <u>工認プロジェクト（原子炉設備チーム及び津波・溢水チーム）は、V-1-10-1の「第5図 主要な設備の設計」の「機器の仕様等に関する設計」に従い、「3.1.1 系統構成の明確化」で取りまとめた「機能単位の系統図」、「3.1.2 兼用する機能の確認」で取りまとめた「設定根拠の「(概要)」部分」、設備図書等をインプットとして、放射性廃棄物の廃棄施設が主登録となる機器について兼用する機能ごとに使用条件を集約したうえで、仕様等に関する設計を実施し、設定根拠に取りまとめた。その結果をもとに、機器が設定根拠を満たす機能を有することを確認し、アウトプットとして機器ごとに必要な設備仕様、設定根拠、配置図及び構造図に取りまとめた。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）
		<p><u>設備技術グループマネージャ及び建築技術グループマネージャは、工認プロジェクト（原子炉設備チーム及び津波・溢水チーム）が取りまとめた設計資料をレビューし、承認した。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）
		<p><u>工認プロジェクト（共通パートチーム）は、放射性廃棄物の廃棄施設で兼用する設備に係る設計のうち、健全性に係る「多重性又は多様性及び独立性並びに位置的分散」、「悪影響防止等」、「環境条件等」及び「操作性及び試験・検査性」の設計をV-1-10-4の「11. 健全性に係る設計」で実施した。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 設計の差異（柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。）

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
：前回提出時からの変更箇所

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

玄海原子力発電所 3号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7号機	備考
		<p>3.2.2 各機器固有の設計</p> <p>(1) 耐震評価</p> <p><u>工認プロジェクト (耐震チーム及び原子炉設備チーム)</u> は、放射性廃棄物の廃棄施設が主登録となる機器の耐震評価をV-1-10-4の「4. 地震による損傷防止に関する設計」で実施した。</p>	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。)</p>
		<p>(2) 強度評価</p> <p><u>工認プロジェクト (原子炉設備チーム及び津波・溢水チーム)</u> は、放射性廃棄物の廃棄施設が主登録となる機器の強度評価をV-1-10-4の「12. 材料及び構造に係る設計」で実施した。</p>	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。)</p>
		<p><u>【要目表】【設備別記載事項の設定根拠に関する説明書】【機器の配置を明示した図面】【構造図】</u></p>	<p>・設計の差異 (柏崎刈羽は、「放射性廃棄物の廃棄施設」が主登録となる兼用設備の設計を行っている。)</p>
			<p>・設計の差異</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7号機との差異
：前回提出時からの変更箇所


玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
			・設計の差異
			・設計の差異
			・設計の差異
			・設計の差異

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更箇所


玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
			<ul style="list-style-type: none"> ・設計の差異

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更箇所

玄海原子力発電所 3号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7号機	備考
			・設計の差異
			・設計の差異
			・設計の差異
			・設計の差異
			・設計の差異
			・設計の差異
		<p><u>工認プロジェクト品質保証チーム管理者</u>は、V-1-10-1の「3.3.3(1) 基本設計方針の作成(設計1)」及びV-1-10-1の「3.3.3(2) 適合性確認対象設備の各条文への適合性を確保するための設計(設計2)」に基づき作成した設計資料について、<u>これがV-1-10-1の「3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化」で与えられた要求事項を満たしていることの検証を</u>、原設計者以外の者を実施させ、承認した。</p>	・表現上の差異

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7号機との差異
：前回提出時からの変更箇所

玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p><u>工認プロジェクト (原子炉設備チーム及び共通パートチーム)</u> は、V-1-10-1 の「3.3.3(4) <u>設工認申請書の作成</u>」に基づき、適用される要求事項の抜けがないように管理して作成した基本設計方針 (設計 1) 及び適用される技術基準の条項に対応した基本設計方針を用いて実施した詳細設計の結果 (設計 2) <u>並びに工事の方法を設工認</u>として整理することにより、<u>設工認申請書案</u>を作成した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異
		<p><u>工認プロジェクトのプロジェクトマネージャ</u>は、V-1-10-1 の「3.3.3(4)e. <u>設工認申請書案のチェック</u>」に基づき、<u>工認プロジェクト (原子炉設備チーム及び共通パートチーム)</u> が作成した<u>設工認申請書案</u>について、<u>本社及び発電所の関係箇所のチェック</u>を受けた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異
		<p><u>工認プロジェクトのプロジェクトマネージャ</u>は、V-1-10-1 の「3.3.3(3) 設計のアウトプットに対する検証」及びV-1-10-1 の「3.3.3(4)e. <u>設工認申請書案のチェック</u>」が<u>終了した設工認申請書案</u>について、V-1-10-1 の「3.3.3(5) <u>設工認申請書の承認</u>」に基づき、<u>原子力発電保安運営委員会へ付議し、審議及び確認を得た。原子力発電保安運営委員会での審議、確認が終了した後、原子力発電保安委員会に付議し、審議及び確認を得た。</u></p> <p>また、<u>原子力発電保安委員会の審議及び確認を得た設工認申請書案</u>について、<u>原子力設備管理部長</u>の承認を得た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異 ・会議体及び手続きの差異
		<p>工事を主管する<u>箇所の長</u>は、V-1-10-1 の「3.4.1 <u>設工認</u>に基づく<u>設備の具体的な設計の実施 (設計 3)</u>」に基づき、<u>設工認</u>を実現するための具体的な設計を実施し、<u>レビューし、承認するとともに、決定した具体的な設計結果を様式-8 の「設備の具体的設計結果」欄に取りまとめる。</u></p> <p>工事を主管する<u>箇所の長</u>は、V-1-10-1 の「3.4.2 <u>設備の具体的な設計</u>に基づく工事の実施」に基づき、<u>設工認</u>の対象となる設備の工事を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異 ・表現上の差異 (設計 3 をレビュー・承認することを明確に記載した。) ・新検査制度移行に伴う表現の差異


青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
：前回提出時からの変更箇所

玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p>工事を主管する<u>箇所</u>の長は、<u>使用前事業者</u>検査の計画検討時に追加工事が必要となった場合、V-1-10-1 の「<u>3.6 設工認</u>における調達管理の方法」に基づき、供給者から必要な調達を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工事工程の差異 ・新検査制度移行に伴う表現の差異
		<p>調達に当たっては、V-1-10-1 の「<u>3.6.3(1) 仕様書</u>の作成」及び様式-8に基づき、必要な調達要求事項を「<u>仕様書</u>」へ明記し、供給者との情報伝達を確実に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異
		<p>工事を主管する<u>箇所</u>の長は、V-1-10-1 の「<u>3.5.2 使用前事業者</u>検査の計画」に基づき、<u>設工認</u>の<u>適合性確認</u>対象設備が、<u>認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること</u>、技術基準規則に適合していることを確認するための<u>使用前事業者</u>検査を計画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異
		<p>工事を主管する<u>箇所</u>の長は、<u>使用前事業者</u>検査の計画に当たって、V-1-10-1 の「<u>3.5.2(1) 使用前事業者</u>検査の方法の決定」に基づき、検査項目及び検査方法を決定し、様式-8の「確認方法」欄へ明記する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異 ・プロセスの差異（柏崎刈羽は、本段階ではレビュー、承認を行わない。）
		<p>検査の取りまとめを主管する<u>箇所</u>の長は、<u>使用前事業者</u>検査を実施するための全体工程をV-1-10-1 の「<u>3.5.3 検査計画</u>の管理」に基づき管理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異
		<p>検査を<u>担当</u>する<u>箇所</u>の長は、V-1-10-1 の「<u>3.5.2(1) 使用前事業者</u>検査の方法の決定」で計画した<u>使用前事業者</u>検査を実施するため、V-1-10-1 の「<u>3.5.5(4) 使用前事業者</u>検査の検査要領書の作成」に基づき、以下の項目を明確にした「検査要領書」を作成し、<u>品質管理担当の審査を経て、検査実施責任者がこれを承認し、該当する主任技術者が確認</u>する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新検査制度移行に伴う表現の差異

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更箇所

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

玄海原子力発電所 3 号機	東海第二発電所	柏崎刈羽原子力発電所 7 号機	備考
		<p>・「<u>検査目的</u>」, 「<u>検査対象範囲</u>」, 「<u>検査項目</u>」, 「<u>検査方法</u>」, 「<u>判定基準</u>」, 「<u>検査体制</u>」, 「<u>検査工程</u>」, 「<u>不適合管理</u>」, 「<u>検査手順</u>」, 「<u>検査用計器</u>」, 「<u>検査助勢を請負企業等へ依頼する場合は当該企業の管理に関する事項</u>」, 「<u>検査の記録の管理に関する事項</u>」及び「<u>検査成績書 (様式)</u>」</p> <p>工事を主管する<u>箇所の長</u>又は検査を<u>担当する箇所の長</u>は、V-1-10-1 の「<u>3.7.2 識別管理及びトレーサビリティ</u>」に基づき、<u>使用前事業者</u>検査対象設備を識別する。</p> <p>検査を<u>担当する箇所の長</u>は、V-1-10-1 の「<u>3.5.5(3) 使用前事業者</u>検査の体制」に基づき、<u>使用前事業者</u>検査の体制を構成する。</p> <p>検査員は、V-1-10-1 の「<u>3.5.5 使用前事業者</u>検査の実施」に基づき、「<u>検査要領書</u>」に基づき確立された検査体制の下で<u>使用前事業者</u>検査を実施し、その結果を検査実施責任者に報告する。</p> <p>報告を受けた検査実施責任者は、<u>検査プロセス</u>が検査要領書に基づき適切に実施されたこと、及び検査結果が判定基準に適合していることを確認し、<u>主任技術者の確認を得た後</u>、検査を<u>担当する箇所の長</u>に<u>検査完了の報告</u>を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検査要領書で明確にする項目の差異 ・新検査制度移行に伴う表現の差異 ・新検査制度移行に伴う表現の差異 ・新検査制度移行に伴う表現の差異 ・検査プロセスの差異

青字：柏崎刈羽原子力発電所 7 号機との差異
：前回提出時からの変更箇所